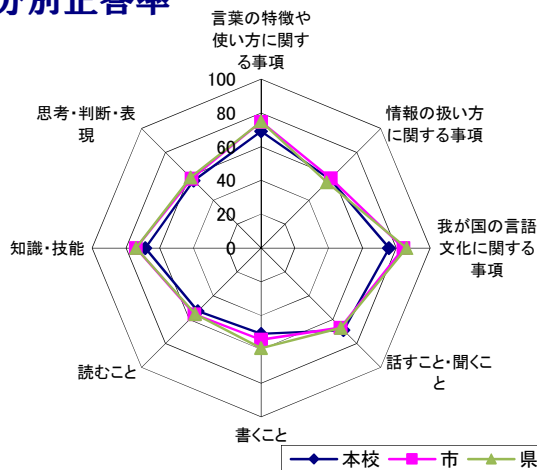


宇都宮市立東小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	69.0	74.7	74.8
	情報の扱い方に関する事項	57.6	58.4	55.0
	我が国の言語文化に関する事項	75.8	84.3	86.1
	話すこと・聞くこと	68.9	66.7	66.9
	書くこと	50.8	54.3	59.3
	読むこと	53.0	55.6	55.2
観点	知識・技能	68.6	74.1	74.0
	思考・判断・表現	56.4	58.0	59.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<p>平均正答率は69.0%であり、県の平均を5.7ポイント下回った。</p> <p>●第3学年に配当されている漢字を読む問題、書く問題において、全ての設問で県の平均を下回った。特に、漢字を正しく書く問題においては、いずれの設問においても県の平均を10ポイント程度下回っている。</p>	<p>・漢字の読みに関しては、漢字ドリル、AIDドリル等を活用し、繰り返し行うことで定着を図っていく。</p> <p>・漢字の書きに関しては、とめ・はね・はらいなどに気を付けて正しく書く学習を徹底する。その上で、漢字の持つ意味について考えながら熟語で漢字練習を行うことで、漢字を日常で活用できるようにしていく。</p>
情報の扱い方に関する事項	<p>平均正答率は57.6%であり、県の平均を2.6ポイント上回った。</p> <p>○国語辞典に掲載されている言葉の中で、複数の意味を持つ場合、例文で用いられた意味として適切な問題を選ぶ設問において、県の平均より3ポイント程度上回っている。</p>	<p>・今後も様々な機会に漢字の意味や言葉の意味を調べる活動を取り入れ、国語辞典の使い方に慣れるようにしていく。</p> <p>・また、言葉が複数の意味を持つことを理解させ、国語辞典をひく際に、適切な意味はどれなのかを考えさせるようにしていく。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は75.8%であり、県の平均を10.3ポイント下回った。</p> <p>●漢字の部首の名前についての設問で、県の平均を10ポイント程度下回った。</p>	<p>・漢字を学習する際に、漢字の部首を確認し、定着を図る。また、漢字の部首についての意味を教えたり、考えたり、調べさせたりすることを通して、漢字のもつ意味と結び付けながら理解を深めていく。その際、同じ「へん」や「つくり」をもつ漢字を調べて集めるなど、ゲーム性を高めるなどの工夫をして、児童が楽しみながら定着が図れるように工夫していく。</p>
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は68.9%であり、県の平均を2.0ポイント上回った。</p> <p>○話し手が話した内容を説明した文として適するものを選ぶ設問においては、県の平均を3.7ポイント上回っている。</p> <p>●参加者の発言の内容に着目して、司会者の発言に適する内容を書く設問においては、正答率が27.3%であり、県の平均を2.3ポイント下回った。</p>	<p>・「話すこと・聞くこと」の授業においては、友達の話を聞きながらメモをとるなどして、話の中心や伝えたいことを整理し、考えながら聞くことができるように指導していく。</p> <p>・また、カリキュラムマネジメントを適切に行い、学級活動など、学校生活の様々な場面を通して話し合いの活動の場を設定するなど様々な場面で「話し合う」活動を取り入れていく。その際、誰もが司会者を担当するなど、様々な立場を経験することで、よりよい話し合いができるように指導していく。</p>
書くこと	<p>平均正答率は50.8%であり、県の平均を8.5ポイント下回った。</p> <p>●文章を書く際、「6行～8行の間で書く」という指定された長さで文章を書く設問では、県の平均と比較すると、20ポイント程度下回っている。</p>	<p>・日記や短作文を書く機会を設けるなど、文章に書き慣れるようにする。</p> <p>・「指定された長さで書く」「書き出しを決めて書く」「1段落には自分の主張を、2段落には主張の理由を書く」など、条件を指定して書く活動を取り入れる。</p>
読むこと	<p>平均正答率は53.0%であり、県の平均を2.2ポイント下回った。</p> <p>○文学的な文章の読み取りの、登場人物の気持ちを読み取る設問については、県の平均を5.0ポイント上回った。</p> <p>●説明的文章の読み取りの、文と文のつながりを読める設問においては、県の平均を10ポイント下回った。</p>	<p>・文学的な文章では、登場人物の行動や気持ちなどについて、人物像や性格などの設定、会話文や行動描写、情景描写等の叙述を基に考えるなど、物語全体を通して複数の叙述から捉えていけるように今後も指導していく。</p> <p>・説明的文章では、段落の内容を捉えて段落相互の関係を考えたり、段落がどのような役割を果たしているのか読み取ったりする活動を取り入れていく。その際、段落ごとに細かく捉える学習活動だけでなく「はじめ・なか・おわり」や「問いと答え」など、文章全体を大きく捉えられることも視野に入れて指導していく。</p>